

# 安全データシート (SDS)

## 1 製品及び会社情報

製品名 : NS アルコール  
会社 : 株式会社中島商会  
住所 : 〒 700-0904 岡山県岡山市北区柳町 2 丁目 2 - 2 3  
電話番号 : 086 (232) 2711  
作成日 : 2020 (令和 2) 年 6 月 16 日

## 2 危険有害性の要約

### GHS 分類

引火性液体	: 区分 2
急性毒性 経口	: 区分外
急性毒性 経皮	: 区分外
急性毒性 吸入 (蒸気)	: 区分外
皮膚腐食性及び刺激性	: 区分外
眼に対する重篤な損傷制又は眼刺激性	: 区分 1
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 分類できない
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 区分 1 A
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 区分 2 中枢神経系 全身毒性 腎臓 : 区分 3 気道刺激 麻酔作用
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 区分 1 肝臓 : 区分 2 中枢神経系
吸引性呼吸器有害性	: 分類できない
水生環境有害性 (急性)	: 区分外
水生環境有害性 (慢性)	: 区分外
オゾン層への有害性	: 分類できない

### GHS ラベル要素

#### 絵表示



#### 注意喚起語

危険

#### 危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気  
重篤な眼の損傷  
生殖能又は胎児への悪影響の恐れ  
臓器の障害の恐れ(中枢神経系 全身毒性 腎臓)  
呼吸器への刺激の恐れ(気道刺激)

眠気またはめまいの恐れ(麻酔作用)  
 長期又は反復曝露による臓器の障害(肝臓)  
 長期又は反復曝露による臓器の障害の恐れ(中枢神経系)

**注意書き**  
**安全対策**

使用時は飲食、喫煙しないこと。火花、高温物のような着火源から遠ざけること。－火気厳禁－  
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
 静電気放電や火花による引火を防止すること。容器は接地すること。火花の出ない安全な工具を用いること。  
 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。妊娠中、授乳期中は接触を避けること。  
 屋外又は換気のよい区域でのみ使用すること。ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
 取り扱い後はよく手を洗うこと。環境への放出を避けること。容器を密閉しておくこと。

**応急措置**

火災の場合は適切な消火方法をとること。  
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸し易い姿勢で休息させること。  
 飲み込んだ場合、無理して吐かせないこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。  
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。  
 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。  
 皮膚（又は毛髪）に付着した場合、直ちにすべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。  
 暴露又はその懸念がある場合、眼の刺激が持続する場合、気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。

**保管**  
**廃棄**

容器を密閉して涼しく換気のよいところで施錠して保管すること。  
 内容物や容器を都道府県の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

**3 組成及び成分情報**

単一製品・混合物の区別：混合物  
 化学名又は一般名：クリーナー  
 危険有害成分

成分	CAS No.	含有量w%	PRTR 第1種 政令 No.	管理濃度 ppm	許容濃度ACGIH ppm
イソプロパノール	67-63-0	5 未満	－	200	200
N-ブタノール	71-23-8	0～10	－		100
イタノール	64-17-5	70～80	－		1000
水	7732-18-5	15～25	－		

**4 応急措置**

- 吸入した場合：被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、体を毛布等で覆い保温して安静を保つ。  
 呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。  
 直ちに医療処置を受ける。
- 皮膚に触れた場合：直ちに汚染された衣類、靴等を脱ぎ、皮膚に付着した部分を石鹼水又は流水で洗い流す。  
 外観に変化が見られたり痛みがある場合には、医師の診断を受ける。
- 目に入った場合：清浄な流水でまぶたの裏、眼球のすみずみまで 15 分間以上洗う。  
 眼科医の診察を受ける。
- 飲み込んだ場合：被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、体を毛布等で覆い保温して安静を保つ。

直ちに医療処置を受ける。意識がない被災者には口から何も与えてはならない。

## 5 火災時の措置

- 使用可能消火剤 : 粉末消火剤、炭酸ガス消火剤、乾燥砂、泡消火剤、アルコールム
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 特有の危険有害性 : 火災によって刺激性のガスや黒煙、一酸化炭素など有害ガスを発生する恐れがある。
- 特有の消火方法 : 大規模火災の場合には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。周辺火災の場合は、周囲の設備などに散水して冷却し、移動可能な容器は、すみやかに安全な場所に移す。  
火災発生場所周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業は風上から行う。適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6 漏洩時の措置

- 人体に対する注意事項 : 作業の際は保護具を着用し、飛沫が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないように注意する。  
風下の人を退避させる。ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 環境に対する注意事項 : 漏洩物が河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法 : 少量の場合はおがくず、ウエス等に吸収させ、密閉できる容器に回収する。  
大量の流出には盛土で囲ってその流れを止め、液の表面を泡で覆うなどして回収する。  
下水、側溝等に入り込まないように注意する。風上から作業を行う。
- 廃棄 : 付着物、廃棄物等は、関係法規に基づいて処置をする。
- 二次災害防止策 : 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。  
衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。

## 7 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い上の注意** : 換気の良い場所で取扱う。容器はその都度密栓する。
- 技術的対策** : 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。  
作業中は帯電防止型の作業服、靴を着用する。・工具は火花防止型のものを使用する。  
装置は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）を使用する。
- 局所排気** : 室内で取扱う場合は蒸気の発散源を密閉する設備、又は局所排気装置、全体換気装置を設ける。
- 注意事項** : 風上から作業する。作業環境を許容濃度以下に保つ。
- 取扱い上の注意** : 漏れ、あふれ、飛散を防ぎ、みだりに蒸気を発生させない。  
取扱い後は手・顔等を良く洗い、休憩所などに手袋等の汚染保護具を持ち込まない。  
吸入を防ぎ、皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、眼に入らぬよう適切な保護具を着用する。
- 安全注意事項** : 強酸化剤との接触を避ける。危険物第1類、第6類との混載禁止。
- 保管上の注意** : 盗難防止のため施錠保管する。（子供の手の届かないところに保管する）
- 技術的対策** : 火気厳禁、ボイラー等熱源から遠ざけて保管する。
- 混触禁止物質** : 酸化性物質との接触を避ける。
- 適切な保管条件** : 危険物倉庫等、風通しのよい冷暗所に保管する。
- 避けるべき保管条件** : 直射日光を避け、低所や換気の悪い場所には保管しない。
- 安全な容器包装材料** : 密閉できる鉄製容器（消防法KHK刻印、船舶安全法UN刻印容器等）

## 8 暴露防止及び保護処置

- 許容濃度、管理濃度** : 「3.組成、成分情報」の項を参照
- 設備対策** : 取扱い設備は防爆型を使用する。排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。屋内作業の場合は、自動機など作業者が直接暴露されない設備とする。密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着用する。取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
- 呼吸器の保護** : 有機ガス用防毒マスクを着用する。密閉された場所では送気マスクを着用する。
- 手の保護** : 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
- 眼の保護** : 取扱いには保護眼鏡を着用する。
- 皮膚及び身体保護** : 直接暴露を避けることの出来る保護衣を着用する。有機溶剤を浸透しない材質が望ましい。
- その他** : 帯電防止服、静電靴を着用する。取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9 物理的及び化学的性質

物理的状態	外観及び色 : 透明液体	臭い : アルコール臭	pH : データなし
状態変化温度	沸点 : 78.3~100℃ (参考値)	融点 : 0℃ > 常温凍結なし	
特性値	引火点 (T.C.C.): 19℃	発火点 : 371℃ (参考値)	
	燃焼範囲 : 2.1~19vol% (参考値)	蒸気圧(20℃) : 5900Pa (参考値)	
	密度(20℃) : 0.839	蒸気密度(air=1) : 1 < (空気より重い)	
	溶解性 : 水に溶ける	オカノール/水分配係数 : 情報なし	分解温度 : 情報なし

## 10 安定性及び反応性

- 安定性** 常温付近で危険な反応はない。自己重合や危険な分解物を生成しない。酸化剤・強酸化剤と反応するので接触禁止。(接触により発熱・発火の恐れ)

## 11 有害性情報

製品としての安全性試験は行っていない。別表 成分の健康有害性参照

## 12 環境影響情報

- 生態毒性、残留性/分解性、生体蓄積性、土壌中の移動性 : 情報なし
- 成分の水生環境有害性情報 : 別表 (急性) (慢性) 参照
- 環境影響 : 漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処する。

## 13 廃棄上の注意

### 残余液の廃棄

- 廃棄物は許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。
- 容器、機械装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
- 排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。

### 容器の廃棄

- 空容器は内容物を完全に除去した後に処分する。
- 残油がある時は引火爆発の危険があり、空容器の切断、溶接、穴あけ等の加工をしない。

### その他廃棄上の注意

- 適用される産業廃棄物処理基準及び法規に従う。
- 廃溶剤等を焼却する場合は、珪藻土等に吸着させ、開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。

また、有害ガス等を適切に除去できる法規に従った焼却炉を使用する。

#### 14 輸送上の注意

全般的な注意	: 取扱及び保管上の注意の項の記載に従う。 容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷の無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。衝撃を加える、引きずる等の乱暴な扱いをしない。
国内規制	: 国連番号 1993 指針番号 127 (緊急時応急処置指針番号)
陸上輸送	: 消防法、労働安全衛生法、毒劇法に該当する場合には、それぞれの該当法規に定められている運送方法に従うこと。
海上輸送	: 船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	: 航空法に定めるところに従う。

#### 15 適用法令

消防法	: 危険物第4類 アルコール類 危険等級Ⅱ
労働安全衛生法	: 危険物(引火性のもの) 有機溶剤中毒予防規則; 非該当
毒物劇物取締法	: 該当しない
船舶安全法	: 引火性液体類
P R T R法	: 非該当
悪臭防止法	: 対象物質なし

#### 16 その他の情報

引用文献	: G H S対応SDS・ラベル作成ガイドブック 日本塗料工業会 製品安全データシートの作成指針 日本化学工業協会 通知対象物質の危険有害性の要約 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター
	その他

#### 記載内容の取扱

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではありません。新たな情報を入手した場合は追加・修正を行い改訂いたします。この情報は、本製品を安全にご使用いただくための参考情報であり、安全に関する保証値ではありません。注意事項は通常の取扱を対象としたものであって、特殊な条件で使用する場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

別表 成分の健康有害性および環境有害性

成分	急性毒性			皮膚腐食性 / 刺激性	眼損傷性 / 刺激性	感作性		生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性	標的臓器 単回暴露	標的臓器 反復暴露	吸引呼吸器有害性	水生環境有害性（急性）	水生環境有害性（慢性）
	LD50 経口 mg/kg / 区分	LD50 経皮 mg/kg / 区分	LC50 吸入 ppm / 区分			呼吸	皮膚								
イソプロパノール	3437 区分外	4059 区分外	29620 区分外	区分外	区分 2A	分類できない	分類できない	区分外	区分外	区分 2	区分 1（中枢神経系、腎臓、全身毒性） 区分 3（気道刺激性）	区分 2（血管、肝臓、脾臓）	分類できない	区分外	区分外
N-プロパノール	2200 区分外	4000 区分外	分類できない	区分外	区分 1	分類できない	分類できない	分類できない	区分外	区分 2	区分 3（麻酔作用、気道刺激性）	分類できない	分類できない	区分外	区分外
エタノール	≥6200 区分外	20000（ガリ） 区分外	63000 区分外	区分外	区分 2B	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	区分 1A	区分 3（麻酔作用、気道刺激性）	区分 1（肝臓） 区分 2（中枢神経系）	分類できない	区分外	区分外

区分外の試験データであっても専門家判断による分類によって区分指定されているものもある。（公的機関により公表された分類結果等）  
急性毒性は主にラットによる試験データを引用している。